

『かしわらっ子』はぐくみ憲章

序 章

うしろ姿で教える

みっともないことせえへん

もったいない

今 失われつつある言葉が よみがえり

思いもかけず 魔法をかける

それはけんそう喧噪をコンチェルト協奏曲に変え 虹にもオーロラにも転じ

おとぎ話と思うことさえ 描き出す

そして かな奏でるように くらし生活を調べにのせていく

確かな言葉は 人を美しくする

溢れる心情は 人を豊かにする

流れるあせは 人をたくま逞しくする

期待は人を育み 絆は人を活かし 15の春に花ひらく

人との出会いは 希望のしるべ まんげきょう万華鏡

織りなす変化に あかりを灯し 夢をも照らす

こころとからだが響き合い 針路を求めて集う時

みんなの気持ちが ほっこり満たされる

あんじょういこか

美しい緑の山々、豊かな川の流れ、私たちの柏原は多彩な自然環境に恵まれています。また数多くの古墳が点在し、河内と大和を結ぶ悠久の歴史を誇るまちです。

このような自然や歴史にふれあいながら、希望をもち、社会の一員として責任を果たすことのできる子どもを育むため、ここに「『かしわらっ子』はぐくみ憲章」を制定します。

基本理念「めざす子ども像」

～ 15の春にひとすじの意志をもった

ひたむきな姿勢をつらぬく若者～

自分大好き、何でもチャレンジ、

夢を語れる かしわらっ子

自分の思いが言える、

仲間の思いが聞ける かしわらっ子

ふるさと
郷土柏原を愛し、

地域・社会に貢献できる かしわらっ子

育 成 理 念

- 1 家庭教育 ~ あたたかい親心で生活習慣・規範をあんじょうする場 ~
 - (1) 子どもに愛情を注ぎ、あたたかい居場所のある家庭づくりに努めます。
 - (2) 家庭の絆を大切にし、人間の命は過去から未来へ受け継がれることを教えます。
 - (3) 家庭での生活リズムを確立し、基本的な生活習慣を身につけさせます。
 - (4) 子育てに時間を惜しまず、社会規範を身につけさせます。

- 2 地域教育 ~ 出会い、ふれあい、人とのつながりをあんじょうする場 ~
 - (1) 地域の大人が率先して自らの行いを正し、規範意識の向上に努めます。
 - (2) 地域の活動に積極的に参加して、子どもと知りあい、互いに挨拶を交わすなどふれあいを深めます。
 - (3) 様々な体験活動や交流活動をとおして、豊かな社会性を育みます。
 - (4) 子どもたちをしっかり見守り、子どもの安全に努めます。

- 3 学校教育 ~ 学びをとおして生きる力をあんじょうする場 ~
 - (1) 子どもたちの感性を育み、郷土を愛する心を育てます。
 - (2) 集団生活を通して切磋琢磨し、学力や生活力を身につけさせます。
 - (3) 様々な体験活動を通して、豊かな人間関係を育みます。
 - (4) 子どもたちの自尊感情を高め、夢を語る子どもを育てます。

行動の指針

基本理念、育成理念にもとづき、ここに人間力みなぎる柏原の人づくりをめざして、市民がともに手を取り肩を組み、「『かしわらっ子』はぐくみ憲章」を具体的な実践へあんじょうつなげていけるよう「行動の指針」を示します。

1 行動の重点

(1) 家庭教育をあんじょうする

家庭では、子どもたちの心身の健康を育み、生活体験や自然体験をとおして、生活習慣や善悪の判断など規範意識や食育の基盤をつくり、人を人として尊重できる「ゆたかな心」を育てます。

(2) 地域教育をあんじょうする

子どもたちが安心して活動できる安全な地域づくりを進め、多様な体験の場を提供し、地域に根ざした活動を通じて、社会との関わりの中で自らを成長させることのできる「しなやかな心」を育てます。

(3) 学校教育をあんじょうする

学習における基礎基本の定着をはじめとした確かな学力をつけ、人と人とのつながりを形成し集団力をつけ、学習に活動に意欲的に取り組む自立した人間として成長する「たしかな心」を育てます。

2 行動の目標

(1) 家庭教育

ほめて、抱きしめて、話をよく聞き、子どもにおしみない愛情のシャワーをそそぎ、一家団らんにつとめ、親子のきずなをつむいでいく。発達段階に応じた子育てを通じて、子どもと共に保護者が親として成長していく。

「早寝・早起き・朝ご飯」を基本とした生活リズムの定着に努め、「よく学び、よく遊ぶ」という子どもらしさのある生活習慣をつけていく。

親として、言ってはならないこと、してはならないこと、場所をわきまえること、まちがったことに対する態度をはっきりと示し、自ら律することができるよう理解させる。

清掃など家庭での役割分担を決め、やりがいのある手伝いを通じて自分が役立つことに喜びを見だし、家族としての責任と自覚をやしなう。

挨拶、感謝、謙虚な気持ちを表現する言葉を日常的に発し、聞き分けなくねだる子どもにがまんを教え、自分の言動に責任があることを自覚させる。

自然体験や社会体験の機会をもち、親子のふれあい、近所や地域等との交流を通じて社会性をつちかい、年長者の智恵と経験に学び、家庭教育の大切さを共有できる環境づくりに努める。

(2) 地域教育

挨拶をはじめ、積極的な声かけで、知りあいになることから地域の仲間としてつきあっていく。

子どもたちが安全・安心で、はつらつと遊び、活動できる場を積極的につくる。また地域の安全・安心のための巡視活動を通じて地域の子どもの育てる組織の維持・発展に努める。

柏原の文化芸術や運動スポーツが、身近なものとして子どもたちに継承・発展されていくようその環境づくりに努める。

地域の人材を活用し、教育資源として地域貢献活動・ボランティア活動の充実に努め、また家庭・学校の支援サポーターとして、その能力を積極的に生かしていく。

人と人がふれあう場、世代間交流ができる場を設定し、自然体験・社会体験・生活体験など様々な体験活動を通して、子どもたちに基本的なルールやマナー、生き方を学ぶなど集団活動に必要な支援を行う。

地域力向上を目的とした地域リーダーの育成に努め、世代間の連携を強化し、地域で親を育て、地域が真に自立した

機能をもつ地域教育コミュニティづくりを推進する。

(3) 学校教育

子どもの学習意欲を喚起し、主体的によりよく学ぶ姿勢を形成するため、教職員の資質・能力及び組織力の向上を図り、信頼される学校づくりをすすめる。

かけがえのない命を大切にし、自分自身を律する規範意識や人を思いやる心の醸成、人とつながりのもてる力の育成に努める。

家庭と十分な連携をとり情報交換を密にしながら、一人ひとりの子ども理解をすすめ、可能性をひき出していく。

地域や企業が有する教育資源の開発とその活用に努め、学校教育に新たな息吹を注入し、チャレンジ精神の高揚を図る。

就学前教育とのつながり、学校間・校種間の連携や交流を促進し、一貫した教育の流れの形成に努める。

3 行動プラン

わたしたち大人は共通理念のもと、子どもたちに一致した行動を示していかなければなりません。子どもたちは親や大人の言動をまねすることから成長していきます。子どもたちにこうなってほしい、ああなってほしいと願いながら基本的に何をなすべきか。大人が率先して実践しなければならない基本的な行動を具体的に提示します。

(1) 人のつながりは言葉から

〔あいさつ〕おはようございます。こんにちは。こんばんは。
おやすみなさい。行ってきます、行ってらっしゃい。ただいま、お帰りなさい。

〔感謝〕ありがとうございます。お世話さまで。
おかげさまで。いただきます。ごちそうさま。

〔謙虚さ〕失礼します。ごめんなさい。すみません。

(2) 周りを明るくする無言実行

〔 清 掃 〕自分の周りにあるゴミを拾う。

トイレをきれいにする。

〔 ゆ ず る 〕互いに道をゆずる。

お年寄りや体の不自由な方に席をゆずる。

(3) 変化する子どもに目を向ける

・日常生活の変化

衣服に汚れがないか、体にケガはないか、なげやりな言動がみられないか。

・もち物の変化

もち物(お金を含む)がなくなっていないか、いたずら書きがされていないか、見かけない物(ナイフ等)を所持していないか。

・人間関係の変化

友人関係に変化がないか、電話等の回数が増えたとか、むやみに呼び出されてはいないか、夜遊びするようになってはいないか。

・家族関係の変化

会話が減ってきてはいないか、やたら反抗的な態度をとるようになってはいないか。

(4) 「ええやん」「あかんやん」「みっともない」と言える

大人

身近な大人として、子どもたちに積極的に声をかけ、挨拶を交わし、つながりをつくることから始める。そして、ほめるべきは褒め、しかるべきは叱り、社会のルールや人間関係を学ばせ、ふれあいを楽しむ中で、子どものエネルギーをひき出していく。

(5) 地域社会による家庭教育への支援

地域が家庭の課題を地域の中で共有できる環境づくりを実践していく。家庭教育支援のために大人が交流し、支援機

能をもち実動する。児童・生徒の非行や問題行動への対応拠点として地域の大人が集い、草の根パワーを発揮する。

(6) 地域・学校での異年齢集団の育成

地域の祭りなど無形文化財の保存と伝承を通じ、またイベント活動などを活用した大人と子ども、子どもと子どもの異年齢間、地域間の交流の促進等、文化・スポーツ活動を通じた地域づくり、人づくりを推進する。

学校での異年齢集団活動の推進はもとより、地域あるいは地域を越えた社会での大人と子ども、子どもと子どもの異年齢集団の活動を通して勢いのある地域づくり、学校づくりを推進する。

(7) 子どもを守る安全・安心活動

家庭・地域・学校がそれぞれ人まかせでなく、自分たちで自分のまちをつくる活動と連動して、子どもを守るための実践活動を行い、その上で責任を共有し合い、地域の子は三者が一体となって守り抜く。

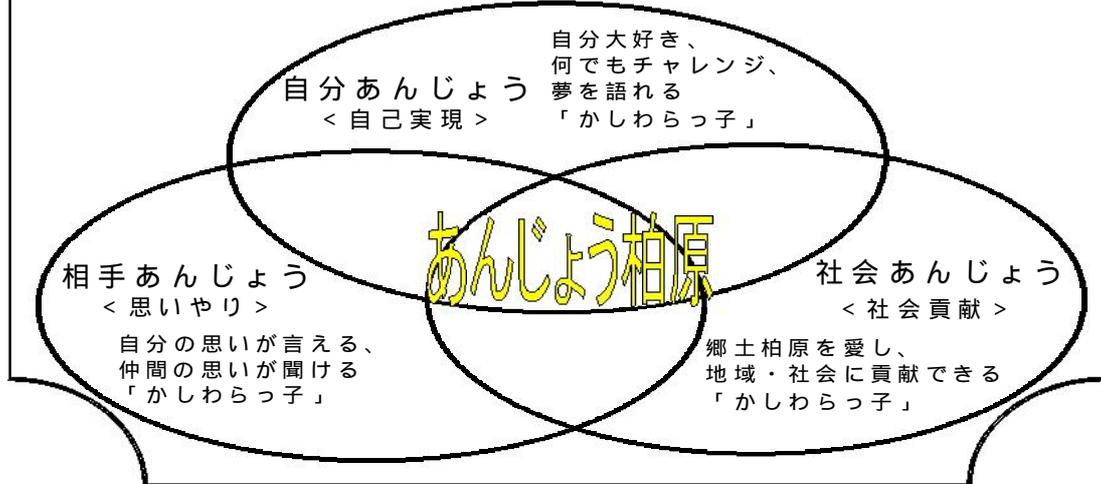
(8) 語らいの場

自ら声をかけ、話しかけ、「語らいの場」をもち、知りあいの輪を広げる。人の集いが家庭・地域・学校の「安全・安心のとりで」となり、郷土の夢と希望の発信源となる。

(9) 「もったいない」「みっともない」の実践

欲しがるものをむやみに与えない。あえてがまんすることの大切さ、今あるものを大切にする尊さから、心の再生をはかる。

めざす子ども像
～ 15の春にひとすじの意志をもった
ひたむきな姿勢をつらぬく若者の育成～



「あんじょう」とは、すべてが具合よく、ちゃんといい方向にいくようにという願いがこめられた大阪弁です。自ら考え行動し、自らの使命と責任を追求し、役立つことを自覚し、助け合うことを喜び、人とまなざしを交わし、郷土にねぎした人間力を「あんじょう柏原」からはぐくみます。

かしわらっ子宣言

1. かしわら、めっちゃ好っきゃねん
2. なんぼしんどおても、がんばるさかい、見といてや
3. あかんことしたら、すぐあやまるんや、ごめんやで
4. みっともないこと、せえへんで
5. おおきに、ありがとさん、感謝の気持ち忘れへん
6. みんなええとこ持ってるやん、友だち大事にしようや
7. どないしたん、言うてや、力になったるで
8. 夢はでっかく、あきらめへん、あんじょういこか